

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

胆嚢全摘後の遺残胆嚢に関しての術後経過の追跡研究

2. 研究の対象患者

国保旭中央病院で急性胆嚢炎に対して胆嚢摘出術を施行した全患者さん

・選択基準

急性胆嚢炎に対して、腹腔鏡下もしくは開腹で胆嚢摘出術を施行された患者さん。手術記録から胆嚢全摘が行われた患者さんを抽出する。

・除外基準

特になし

3. 研究の対象期間

2007年1月1日～2024年3月31日

4. 研究の概要

胆のうは総胆管や肝動脈など重要脈管構造と近接した臓器である。胆嚢摘出術を行う場合、通常は胆嚢動脈、胆嚢管を処理し胆嚢を肝臓から剥離し胆嚢摘出を完了するが、胆のう炎に対する手術では胆嚢管周囲が炎症性に肥厚したり周囲組織との癒着を来することがあり、胆嚢管の処理が困難であることがある。無理に胆嚢管の処理を試みると、総胆管、肝動脈などの副損傷を起こしてしまう危険性があり、必要に応じて胆嚢を一部のみ切除する亜全摘術を選択することがある。高度炎症例に対する胆嚢全摘は胆管炎・胆嚢炎ガイドラインにも明示されている。

一方で胆嚢が一部遺残することにより新たな結石の形成、遺残胆嚢炎、胆嚢癌発生の可能性が想定されるが、その頻度は明らかになっていない。胆嚢全摘後の短期成績および長期成績に関する報告は散見されるものの、いずれも症例数が少なく、十分なエビデンスになるとは言いがたい。当院は胆嚢摘出術の症例が比較的多く、また亜全摘を積極的に取り入れて来た経緯がある。当院で胆嚢炎に対して胆嚢摘出術を行った患者を後ろ向きに解析し、通常胆嚢摘出を行った患者と亜全摘を行った患者の術後成績の比較、亜全摘後の遺残胆嚢における胆石発生率、胆嚢炎発症率、胆嚢癌発症率などを検討する。

5. 研究実施予定期間

2025年7月16日～2026年3月31日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

〔研究対象者背景〕：年齢、性別、身長、体重、入院日数、手術名・手術日、出血量、手術時間、診断名、術後合併症、再PTGBD穿刺歴の有無、亜全摘術の手術方法、亜全摘後の長期成績、追加治療があった場合はその方法

〔血液学的検査〕：RBC、Hb、WBC、Neu(%)

〔血液生化学的検査〕：AST/ALT、ALP/γGTP、CRP

〔術後病理組織学的検査〕：初回手術と再手術の胆嚢病理検査(診断名)

7. 研究により得られた結果等の研究対象者への説明方針

本研究は既存の日常診療情報を用いる後ろ向き観察研究であることを踏まえ、研究対象者の健康状態等の評価に関する知見が得られた場合でも、研究結果を研究対象者(又は代諾者)個々に開示することはありません。

8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

（連絡先）地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・ 研究責任者： 外科 田中宥暉

・ 臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)